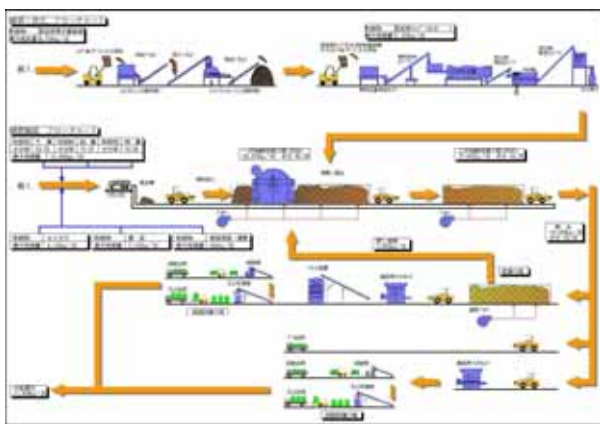


バイオマス利活用施設の概要

作成日：平成 19 年 8 月 31 日

作成者：(財)日本システム開発研究所

	【施設名称】 地域資源活用促進施設
	【事業主体】 富山市（旧八尾町）
	【所在地】 富山県富山市（旧八尾町）
	【運転開始年】 平成 16 年（2004 年）
原材料および利用量	家畜糞尿、食品残さ、製材くず等 8,400 t / 年
生産物（種類）	有機肥料（たい肥）4,400 t / 年
利用方法	地元の農業法人等生産者へ販売・散布
導入目的・経緯	八尾町地域では「環境にやさしい町づくり」を基本とした地域資源循環型の社会づくりを推進しており、農業分野においても環境と調和のとれた安全・安心・高品質な農産物「八尾ブランド」の生産を進める
設備仕様	農業生産により発生する家畜ふん尿やもみ殻、野菜残さ等を活用して堆肥化を行うと共に、剪定枝等の木質系資源を炭化するほか、炭化施設の廃熱を利用して効率的な有機質資源の堆肥化を行う
稼働状況	
経済性関連データ	国「バイオマス利活用フロンティア整備事業」615,000 千円 県「水田農業生産振興対策事業」123,000 千円 総事業費 1,230,000 千円（うち施設整備費 852,700 千円）
導入効果	廃棄物等を適正な処理により堆肥化することで、野積み等による悪臭や地下水汚染が防止され環境が保全される。また木質系バイオマスを炭化することにより化石燃料費の削減が図られる
運営上の課題	施設稼働後間もないため、有機資源の安定収集やたい肥生産の高位安定化を図るとともに、再生資源であるたい肥の農地還元後の農業生産に与える影響等について明らかにする必要がある
備考・参考資料	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 17 年度 北陸管内におけるバイオマス利活用の取組事例集 ・北陸農政局 HP（H17 年度北陸管内におけるバイオマス利活用の取組事例）